■初版 表紙



■第2版 (表記の変更)



■初版 P.10

3暑中見舞いの書き方

■「暑中見舞い」とは?

7月7日(小暑)か58月7日(立秋の前日)までの時期に出す夏のあいさつのお便りのことです。この期間は、二十四節気中の「大暑 (7月23日)」ともぼぎ重なる酷暑の時期に当たり、江戸時代には夏負けを訪ぐ食べ物をお土産に持参していました。

現在のはがきによる暑中見舞いのやり取りが習慣化するのは大正時代からです。

久しく会う機会のない知人やお世話になった人などに対するご機嫌伺いとして、暑中見舞いのやり取りは、日本独特の習慣です。

③末文(結び)

★暑い季節だからこその

相手の健康を願う言葉

★今後のこと

- 暑い日が続きますが、ご自愛ください。
- ・お体を大切になさってください。

△後付け

★日付

暑中見舞いのときは「盛夏」 残暑見舞いのときは「晩夏」 「立秋」

★自分の名前



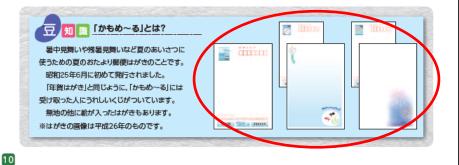
(書き出し)

★暑さを見舞うあいさつ

- ・暑中お見舞い申し上げます
- ・残暑お見舞い申し上げます※前文あいさつには
- 句読点は不要です。 ★相手の安否を尋ねる
- いかがお過ごしですか。
- ・お変わりなくお過ごしの ことと思います。

②主文(本文)

- ★この夏の体験、近況
- ★相手に伝えたい出来事
- ・毎日部活の練習で
- 汗を流しています。
- 受験生なので、
- 勉強にいそしむ毎日です。



■第2版 (かもめ~る画像の差し替え)

③暑中見舞いの書き方

■[

■「暑中見舞い」とは?

7月7日(小唱)から8月7日(立秋の前日)までの時期に出す夏のあいさつのお使りのことです。この期間は、上712 記念中の「大唱 (7月23日)」ともほぼ重なる學典の時期に当たり、江戸時代には夏負けを訪ぐ食べ物をお土剤に持参していました。

現在のはがきによる暑中見舞いのやり取りが習慣化するのは大正時代からです。

4 3

久しく会う機会のない知人やお世話になった人などに対するご機嫌何いとして、暑中見舞いのやり取りは、日本独特の習慣です。

③末文(結び)

★暑い季節だからこその 相手の健康を願う言葉

★今後のこと

- 暑い日が続きますが、ご自愛ください。
- お体を大切になさってください。

4後付け

★日付

暑中見舞いのときは「盛夏」 残暑見舞いのときは「晩夏」、 「立秋」

★自分の名前

著中 お 見舞 い 申 し上 げます を書ことのほか厳しい中、お変わりなくお過ごしています。今年は例年以上の基書になるとの事、先が思いやられます。こちらは都心に比べ多少過ごしやすいので良かったら遊びに来てください。この暑さはまだしばらく続きそうです。 くれぐれもご自愛ください。 くれぐれもご自愛ください。

①前文 (書き出し)

★暑さを見舞うあいさつ

- 暑中お見舞い申し上げます
- 残暑お見舞い申し上げます
- ※前文あいさつには 句読点は不要です。

★相手の安否を尋ねる

- いかがお過ごしですか。
- お変わりなくお週ごしの
- ことと思います。

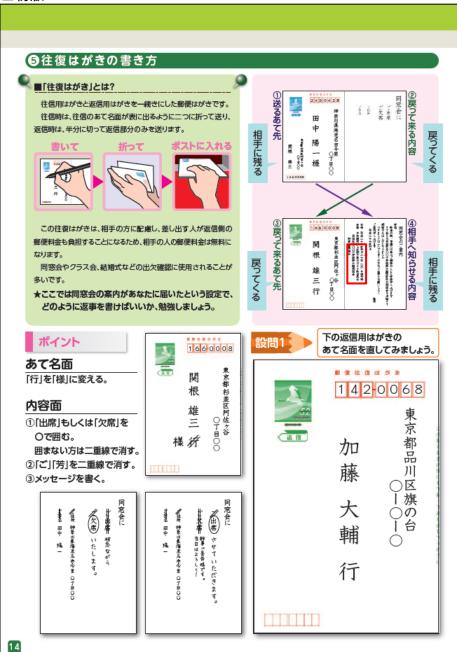
②主文(本文)

- ★この夏の体験、近況
- ★相手に伝えたい出来事
- ・毎日部活の練習で
- 汗を流しています。
- 受験生なので、
- 勉強にいそしむ毎日です。

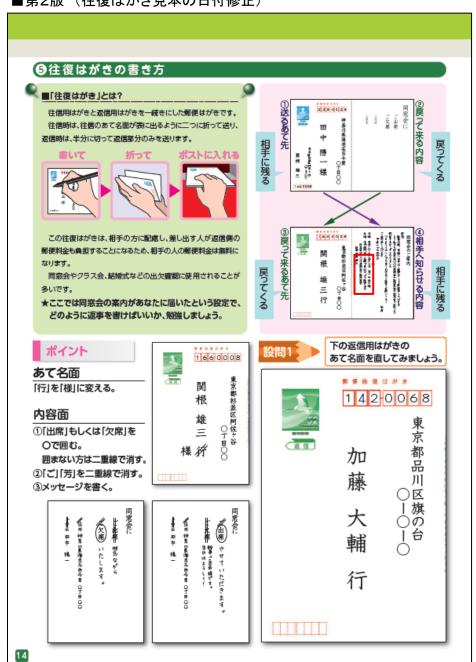


10

■初版 P.14



■第2版 (往復はがき見本の日付修正)



■初版 P.23



23

■第2版 (誤植修正)



■初版 裏表紙



■第2版 (かもめ~る画像の差し替え)

